

船舶事故等調査報告書

平成22年12月16日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第39号
事故等種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成22年2月6日 01時20分ごろ
発生場所	静岡県下田市下田港西防波堤南西面 (概位 北緯34°39.5′ 東経138°57.0′)
事故等調査の経過	平成22年3月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 ^{ほうせい} 賢生丸、199トン
船舶番号、船舶所有者等	135586、旭汽船有限会社、船舶借入人 泰山海運有限会社
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 右舷船首部に擦過傷及び凹損 下田港西防波堤南西部ケーソンに擦過傷
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、荒天避難のため下田港に入航することとしたが、平成22年2月6日01時20分ごろ、下田港西防波堤に衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 6、視界 良好 海象：波高 約3m 特記事項：強風波浪注意報発表中
その他の事項	<p>船長は、単独で手動操舵により操船していた。</p> <p>船長は、操船中、レーダー及びGPSの画面を確認することはなかった。</p> <p>船長は、約18年ぶりの下田港入航であった。</p> <p>下田港では、赤根島と須佐里崎に挟まれた湾口部において、赤根島側（西側）に陸岸近くから南東部に延びる長さ500mの、洲佐里崎側（東側）陸岸近くから正横に伸びる長さ400mの防波堤建設工事がそれぞれ行われている。赤根島側の防波堤は、仮航路幅150mを挟んで北西側の260m（以下「西防波堤北西部」という。）と南東側90m（以下「西防波堤南東部」という。）が暫定的に完成している。西防波堤北西部の南東端付近に下田港赤根島沖灯浮標A及び同Bが、西防波堤南東部の北西端に下田港西防波堤仮設灯台がそれぞれ設置されていた。</p> <p>船長は、入航に際して、下田港赤根島沖灯浮標A及び同Bの見通し線を目安としていた。</p> <p>船長は、01時10分ごろ、西防波堤沖0.5海里付近に達し、下田港赤根島沖灯浮標A及び同Bの南東方約150mのところに位置する下田港西防波堤仮設灯台を確認するため、機関の発停を繰り返しながら、船首方位000°、速力約3ノットで航行した。</p> <p>船長は、西防波堤に接近していることに気付き、全速後進をかけたが、間に合わず、本船は、約45°の角度で本船船首部が西防波堤南東部と衝突した。</p>

	下田港西防波堤仮設灯台は、当時、点灯していた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、強風波浪注意報が発表されている状況下、下田港に入航中、船長が、下田港西防波堤仮設灯台の確認に気を取られ、西防波堤南東部への接近に気付くのが遅れ、西防波堤南東部に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が下田港に入航中、下田港西防波堤仮設灯台の確認に気を取られていたため、西防波堤南東部への接近に気付くのが遅れ、西防波堤南東部に衝突したことにより発生したものと考えられる。	